

## 共同アピール

2013年2月27日

明るい民主大阪府政をつくる会  
大阪市をよくする会

明るい会・よくする会構成団体のみなさん

いま大阪の民主勢力には、安倍自公政権と橋下「維新の会」—この2つの憲法改悪とくらし破壊の勢力にいずれも正面から立ちむかい、打ち破るという歴史的な責務が課せられています。

総選挙で衆議院第3党、大阪では第1党の地位を占めた橋下・維新は、この夏の参院選を視野に入れ、府政・市政の各分野で暴走を加速させています。

とくに彼らが中心戦略とする「大阪都」構想では、府議会・大阪市議会で「法定協議会」を設置することを決め、協議を開始します。急ピッチで会合を重ね、維新と公明多数の「数の力」にものをいわせて「特別区の区割り案」などをごり押しし、一気に「住民投票」へと持ち込む構えです。

そして、大阪府・大阪市の新年度予算案は、「大阪都」構想にあわせ、「府市統合」の名のもとで、住吉市民病院の廃止、1933年以来80年、市民が発展させてきた歴史をもつ地下鉄・バスの「民営化」や廃止、府立大学と市立大学の「統合」をはじめ、大事な府民向け・市民向け施策をバツサリ削る内容になっています。大阪市は「市政改革プラン」2年度めの実行で、新たに136億円もの住民サービスを削減。国保料の値上げや市立幼稚園59園すべてを民営化・廃止する計画もだしています。桜宮高校の「体罰事件」を利用した教育への政治的介入や「学校選択制」導入の動き、地域振興会つぶしの策動も一段と強められています。

みなさん

こうした攻撃に対して、私たちは大阪市内でのたたかいはもとより、府的に次の方向で、橋下・維新に立ちむかい、追い詰め、打ち破る活動を開始しようではありませんか。

その第1は、「大阪都」構想をはじめ、橋下・維新による「大阪つぶし」の狙いと本質を見抜き、語り、広げて、「橋下さんには実行力がある」「大阪を変えてくれる」となど広くある幻想を打ち破る活動です。

「橋下・維新は何を狙うか」「『大阪都』でくらしはどうなるのか？」などのテーマで、学習会、つどいを開き、宣伝と対話を強化しましょう。

「明るい会」「よくする会」としてのシンポジウムの開催や学習・討議資料の発行もすすめます。

第2は、「大阪都」への地ならしとしてすでに激しく進められているくらしと民主主義破壊、大阪市解体攻撃を許さず、草の根の各分野から打ち破る活動です。

とくに緊急となっているのは、大阪市営地下鉄・バスの「民営化」・廃止を許さない

ために、宣伝・署名・つどい、各党派・議員への申し入れなどをすすめることです。地下鉄と市バスは一体となって市民・利用者の足を守る公共交通ネットワークを築いてきました。莫大な国と大阪市の税金を投入して建設してきた市民共有の財産です。しかも、累積赤字は解消し、いまでは年間200億円もの黒字をうみだしているのです。

「民営化」は大義も道理ありません。市営交通として、この黒字でひきつづき市バスを支え、いまでも私鉄の水準を大きく上回る安全柵やバリアフリー化、津波や洪水など自然災害対策を強化し、料金の引き下げ、さらには大阪市財政への還元をはかるべきです。

地下鉄「民営化」のためには、市議会で3分の2の賛成が必要で、維新と公明だけではできません。各行政区から、各分野から、「市民の足を守れ」「年間200億円黒字の地下鉄をなぜ民営化する必要があるのか」「大都市“100年の計”を市民の声をまともに聞きもせず、橋下・維新が勝手に決めるな」などの声を広げましょう。

3月8日の「地下鉄問題・いっせい宣伝デー」をはじめ、統一行動も組み、断固として打ち破りましょう。

「住吉市民病院は公立のまま存続を」「大阪城公園でのモトクロスは中止を」などのたたかいをすすめ、その共通の根っこにある「大阪都」構想批判を一体にすすめましょう。

第3は、こうした批判とともに、明るい会、よくする会を先頭に、橋下・維新とは180度異なる「明日の大阪像」をうちだし、府民・市民とともに討論し、共同する活動です。

ダブル選挙でうちだした「梅田ビジョン」や「よくする会政策」を大きく発展させ、「賃上げ・雇用拡大を国と大企業に働きかけ、くらしと福祉充実で格差と貧困を打開する大阪を」「いじめも体罰もなく、子どもたちを主人公に、学ぶ喜びあふれる大阪を」「憲法を守り、生かす先頭に立つ大阪」「政令市の力を生かし、24区の住民自治が輝く大阪市へ」などの展望と課題を大きく論議していきましょう。

みなさん

総選挙での橋下・維新への支持は、その政治的本質を見抜いたものでも、政策を支持したものでもありません。その大半は「民主はダメ、自民もノー。政治を変えたい」という願いです。その願いと、橋下・維新が実際にやってきたこと、これからやろうとしていることとの間には、相いれない大きな矛盾があります。マスメディアからも、橋下氏が知事就任後の5年間、「生活・経済乏しい成果」「施策実現見えぬ道筋」と特集記事がだされています。

地下鉄「民営化」や「大阪都」への攻撃は重大局面を迎えています。逆にこれを打ち砕くなら、大阪、さらに日本の政治情勢にも一大転機となるでしょう。

橋下・維新の攻撃を「いささかも甘く見ない」、同時に「恐れない」—この立場にたち、「大阪は一つ」となって立ち向かおうではありませんか。